

全国のミュージアムが連携する おうちで楽しく学べる おうちミュージアム

渋谷 美月

北海道大学 大学院 環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 誰もが日常の中でミュージアムを楽しみ学べる
- ◆ 学校/福祉施設/子育て支援/病院等でも活用
- ◆ 小さなミュージアムも共に連携し活動続ける

研究の対象 おうちミュージアム

博物館、美術館、科学館、ネイチャーセンター、教育委員会等といったミュージアムが各館ならではの、「おうちで楽しく学べる」工作やクイズ、レシピ、カードゲームといったコンテンツをネットで発信する取り組み。

コロナ禍の臨時休館と学校の臨時休校中が重なった時期に、北海道博物館（厚別区）がはじめた。

全国のミュージアムに参加を呼びかけ、**共通のロゴを掲げて現在250以上が共同で発信。**

発表者は同館学芸員として企画を担い、おうちミュージアムを報告した論文は、日本博物館協会よりR2年度棚橋賞（最高賞）受賞。



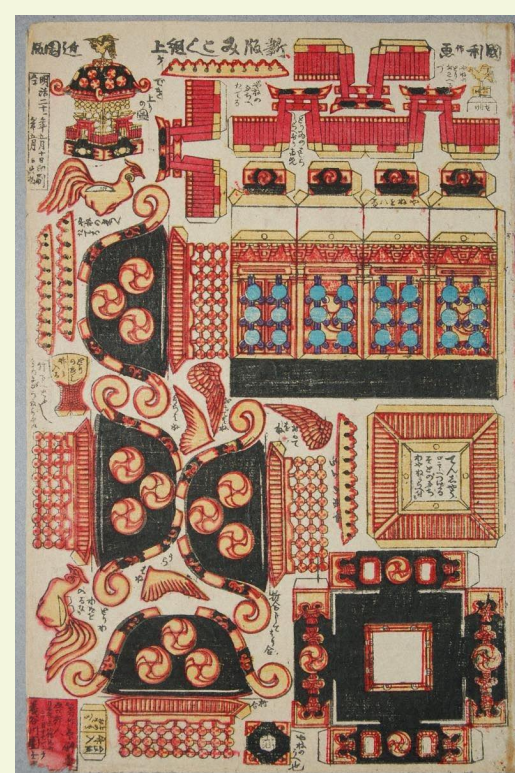
おうちミュージアムのコンテンツの例



「魚の耳石を取り出そう」
熊本博物館ウェブサイトより引用



アンモナイトの構造を再現した折り紙
「アンモナイト折り紙」
北海道博物館ウェブサイトより引用



浮世絵のペーパークラフト
「新板みこし組上げ」
（歌川国利）
足立区立郷土博物館
収蔵資料データベース
より引用

研究でわかったおうちミュージアムの特徴、達成されたこと

- ◆ これまでミュージアムが置き去りにしてきた障害などのため来館が難しい利用者に使ってもらえ、学校教育等での活用も可能

ユニバーサルミュージアム	来館が前提
おうちミュージアム	来館が必要ない

- ◆ 生活・自然のなかで学ぶコンテンツが多い

デジタルミュージアム	展示や資料管理の機能をデジタル化バーチャル化
おうちミュージアム	日常の中にミュージアムならではの学びを見つける

- ◆ 小規模ミュージアムも一緒に発信できる

国内の多くのミュージアムは、市町村立などの小規模館であり、1名ほどしか学芸員がおらず、「日々の多様な業務を限られた人員で行う中で、新たな課題に取り組んでいくことは困難」（文化庁,2022）である。おうちミュージアムでは、国立などの大規模館も、小規模館も、両方を含む多様なミュージアムが連携しており、多くの利用者に多様なコンテンツを示すことができた。

来館の代替ではない新しい博物館活動として連携して継続すべき

